|  |
| --- |
| 令和6年度二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業 |
| 応募者名 |  |
| 国名及び事業名 | ○○／○○○※【様式1】公募提案書に記載の事業名を記載してください。 |
| 書類番号 | 書　　類 | 確認欄 | 様式 | 備　　考 |
| 0 | 【様式6】公募提案書類チェックリスト |  | センター指定様式 | 本紙。確認欄にチェックを入れてください。該当しない場合は「－」を記入してください。 |
| 1 | 【様式1】公募提案書 |  | センター指定様式 | 電子システム申請画面上で作成してください。 |
| 2 | 【様式2】代表事業者届出書 |  | センター指定様式 | 電子システム申請画面上で作成してください。 |
| 3-00 | 【様式3-00】実施計画書 |  | システム入力 |  |
| 【様式3-00】実施計画書の添付資料（同計画書の記載内容の補足または根拠を示す資料）：3-01～3-16 |
| 3-01 | 事業の主たる実施場所 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明1 |
| 3-02 | 許認可等取得状況 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明2別紙 作成例1 |
| 3-03 | 環境影響評価の実施状況 |  | 任意様式 |  |
| 3-04 | 原材料調達や売電等にかかる調整状況 |  | 任意様式 |  |
| 3-05 | 実施体制図 |  | 任意様式 |  |
| 3-06 | 代表事業者の事業参画意志 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明3 |
| 3-07 | 共同事業者の事業参画意志 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明4 |
| 3-08 | 資金調達の確実性 |  | 任意様式 |  |
| 3-09 | 投資回収年数及び内部収益率 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明5 |
| 3-10 | 3-10-01主要機器リスト3-10-02導入設備・機器の仕様書及びカタログ3-10-03主要機器の選定理由（他社製品との比較表） |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明6、7及び8別紙　作成例2及び3 |
| 3-11 | 3-11-01導入設備・機器の概要図3-11-02配置図3-11-03システム図 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明9別紙 作成例4及び5 |
| 3-12 | GHG排出削減量算定 |  | センター指定様式 | 別紙 詳細説明10 |
| 3-13 | モニタリング機器の仕様書及びカタログ |  | 任意様式 |  |
| 3-14 | モニタリングに関するシステム図 |  | 任意様式 |  |
| 3-15 | 事業実施スケジュール |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明11 |
| 3-16 | 【様式3-16】Project Idea Note for the JCM Project |  | センター指定様式 |  |
| 4-01 | 【様式4】経費内訳 |  | システム入力 |  |
| 4-02 | 積算根拠資料 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明12 |
| 5-01 | 国際コンソーシアム協定書(案) |  | センター指定様式 | 別紙 詳細説明13 |
| 5-02 | 【様式5】Agreement on the Allocation of JCM Credits |  | センター指定様式 | 別紙 詳細説明14 |
| 6-01 | 応募者の会社概要・事業実績 |  | 任意様式 |  |
| 6-02 | 応募者の経理状況説明書 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明15 |
| 7-01 | 共同事業者の会社概要・事業実績 |  | 任意様式 |  |
| 7-02 | 共同事業者の経理状況説明書 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明16 |
| 8 | その他参考資料 |  | 任意様式 | 別紙 詳細説明17 |

※特に様式に指定がないものは、任意の様式とする。

別紙

提出資料の詳細説明・作成例

＜提出資料の詳細説明＞

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No. | 書類 |  |
| 1 | 3-01事業の主たる実施場所 | ・①実施国における事業所の位置を示す地図、②最寄りの空港などの公共交通機関の拠点から事業所に至る経路を示す地図、③事業所敷地内における導入設備の配置を示す地図（工場配置図等）を添付してください。・地図の出典元を明記してください。 |
| 2 | 3-02許認可等取得状況 | ・事業実施に必要となる許認可の取得状況や予定に関して具体的に記載のある資料を添付してください。（作成例1参照） |
| 3 | 3-06代表事業者の事業参画意志 | 社内での決裁（審査）等により参画意思が分かるように説明してください。 |
| 4 | 3-07共同事業者の事業参画意志 | 単なる関心表明レターではなく、代表事業者と共同事業者が合意した事業計画（対象設備の規模・性能・台数、発注先、価格、設備導入スケジュール、導入後の稼働計画等）を、審査中あるいは採択後に共同事業者が変更することがないように、事業計画に合意していることを代表事業者として説明できる共同事業者のレターを添付してください。 |
| 5 | 3-09投資回収年数及び内部収益率 | 各数値の計算過程や算出根拠の説明資料（補助あり、補助なしの２通り）をエクセル形式で提出してください。内部収益率については、SPCの（事業のマージナルな）フリーキャッシュフローの内部収益率を計算し、関数を全て残し、使用通貨を明示してください。外国為替換算を行った場合はそのレートの証憑を添付してください。複数のサイトや技術のフリーキャッシュフローを別々のシートで計算した場合は、それらを合算した統合シートを作成し、その投資回収年数及び内部収益率を計算してください。 |
| 6 | 3-10-01主要機器リスト | 本事業で導入する補助対象設備・ 機器を網羅し、ID No.を入れて、概要図、配置図 、システム図 、カタログ、仕様書、見積書に示された機器には同じID No.を配番することで紐付けしてください。 |
| 7 | 3-10-02導入設備・機器の仕様書及びカタログ | ・性能・仕様の定量的な比較に関する根拠資料を添付してください。・カタログ、仕様書、商用運転実績の証憑、実証試験報告書、文献などを添付してください。 |
| 8 | 3-10-03主要機器の選定理由（他社製品との比較表） | 本事業で導入する設備の選定理由について、比較表を作成して具体的に説明してください。（作成例2及び3参照） |
| 9 | 3-11-01導入設備・機器の概要図 | 本事業で導入する技術・設備の概要及び代替される技術・設備の概要について、図や表を用いて具体的に説明してください。（作成例4及び5参照） |
| 10 | 3-12GHG排出削減量算定 | ・様式は、センターが別途提示する「排出削減量算定にかかるエクセルファイル（太陽光、小水力、コジェネ、冷凍機、エアコン、ボイラー）」、もしくは他の適切な方法により、事業の直接効果及び波及効果を算定したものとしてください。・JCM合同委員会で承認された方法論を活用する場合、もしくは提案中で既に方法論案が作成されている場合、同方法論のスプレッドシートにより、排出削減量を算定した上で、同スプレッドシートを合わせて添付してください。 |
| 11 | 3-15事業実施スケジュール | ・具体的な事業実施スケジュールを添付してください。 |
| 12 | 4-02積算根拠資料 | ・経費内訳の添付資料（費目別経費の積算根拠を示す見積書・積算書等）。資料番号は見積書等、証憑毎に4-02-01、4-02-02と分けて配番してください。・設備補助対象経費の中に国際コンソーシアム構成員からの製品等の調達経費（各構成員による自社調達経費を含む）が含まれる場合は、利益等排除申告書及び根拠資料（原価管理表等）を添付してください。（FAQ【４．補助対象経費・利益排除】参照。）・発注先企業と代表事業者ならびに共同事業者の役員、幹部職員の間に兼職者がある場合は、当該製品の調達コストが市場価格であることを証する資料相見積比較表などを添付してください。 |
| 13 | 5-01国際コンソーシアム協定書(案) | ・提案時点ではドラフト（サインなし）を添付してください。・協定書案にはコンソーシアム体制図を含めてください。 |
| 14 | 5-02【様式5】 | ・押印又は署名済み合意書のコピーを添付してください。 |
| 15 | 6-02応募者の経理状況説明書 | ・経理状況説明書（直近３期分の監査済みの貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書及び監査報告書を提出してください。法令上キャッシュフロー計算書を作成する義務がない場合は、これを提出しなくてもかまいません監査報告書は、当該財務諸表作成において準拠した会計基準がなにか、そして提出された財務諸表がその会計基準に準拠しており、かつ、適正に表示されていることを明確に証するものを提出してください。監査法人による監査を受けていない会社で監査役ないし監査委員会による監査報告書を提出してください。監査役を置いていない会社はその旨をご説明ください。）・単体財務諸表及び連結財務諸表を資料として提出してください。（代表事業者自身が親会社である場合は自社の単体と連結の財務諸表、子会社である場合は自身の財務諸表に加え、親会社の連結と単体の財務諸表）・直近３期のうち、１期でも営業損失、経常損失、又は債務超過が存在する場合、これらの問題が生じた原因、具体的な改善策とその実効性を論じた経営改善計画等を添付してください。既に直近の決算期でマイナス状態が解消されている場合は、過年度でマイナスだった理由を記載してください（様式任意）。・応募時に会社設立後３会計期間を経過していない事業者は、以下の書類を提出してください。①法人設立から１会計年度を経過していない場合：応募年度の事業計画及び収支予算②法人設立から１会計年度を経過し、かつ、２会計年度を経過していない場合：応募年度の事業計画及び収支予算、直近１決算期に関する財務諸表③法人設立から２会計年度を経過し、かつ、３会計年度を経過していない場合：直近２決算期に関する財務諸表 |
| 16 | 7-02共同事業者の経理状況説明書 | ・経理状況説明書（直近３決算期の監査済みの貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書及び監査報告書を提出してください。法令上キャッシュフロー計算書を作成する義務がない場合は、これを提出しなくてもかまいません。監査報告書は、当該財務諸表作成において準拠した会計基準がなにか、そして提出された財務諸表がその会計基準に準拠しており、かつ、適正に表示されていることを明確に証するものを提出してください。）・単体財務諸表及び連結財務諸表を提出してください。（共同事業者自身が親会社である場合は自社の単体と連結の財務諸表、子会社である場合は自身の財務諸表に加え、親会社の連結と単体の財務諸表）・設立が未了であり、予定の段階であれば、設立の認可を受け、法人のJCM設備補助事業に応募年月を含む会計年度の事業計画及び収支予算の案を提出してください。・当該事業の資金調達が親会社等の出資・融資・保証による場合（共同事業者が特別目的会社（SPC）の場合を含む）は、これらの関係者の出資・融資金の資金調達方法について説明する資料も提出してください。 |
| 17 | 8その他参考資料 | ・温室効果ガスの排出削減目標の公表内容について提示を求められた際には、掲載ウェブページを資料として提出してください。 |

＜提出資料の作成例＞

＜作成例1＞　資料番号3-02 許認可等取得状況（作成例）

表中の書類番号は添付資料の番号を記載する。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 許認可等 | 提出先 | 申請時期 | 取得予定時期 | 書類番号 |
| 1) | 土地のリース契約申請 | 〇〇省 | 202X年X月 | 202X年X月 | 3-02-01 |
| 2) | コージェネレーション設備の建屋の建築申請 | 〇〇市建設局 | 202X年X月 | 202X年X月 | 3-02-02 |
| 3) | 電力事業者ライセンス | 〇〇市エネルギー規制委員会 | 202X年X月 | 202X年X月 | 3-02-03 |
| 4) | 建設工事を実施するための事業許可 | ●▲工業団地管理委員会 | 202X年X月 | 202X年X月 | 3-02-04 |
| 5) | コージェネレーション設備の環境影響評価（EIA:Environmental Impact Assessment） | － | 不要 | － | － |

＜作成例2＞　資料番号3-10-03　　主要機器の選定理由（他社製品との比較表）（作成例）

表1：　太陽光モジュール

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 候補1 | 候補2 | 候補3 |
| メーカー | ＠社 | A社 | B社 |
| 製品名 | XX-XX | YY-YY | ZZ-ZZ |
| 種別 | 単結晶 | 単結晶 | 単結晶 |
| 容量（W／枚数） | XXX | XXX | XXX |
| 発電効率（%） | 21.4% | 21.5% | 20.7% |
| 機器価格 | X,X00 VND/ W | Y,Y00 VND/ W | Z,Z00 VND/ W |
| 機器性能 | 出力保証25年 | 出力保証25年 | 出力保証25年 |
| 検査体制 | 〇 | △ | △ |
| 採用判断 | 〇 | △ | ✕ |

【候補1を選定した定性的理由】

1. @社独自の検査実施により故障率を軽減している点

@社は中国の工場でOEM生産したパネルを日本の工場で独自の厳格な検査を実施し、基準を満たさないパネルについては返品し再度発注をかけて、納入時の故障率を最小化する取組みを実施しています。

1. パネルメーカーとEPC事業者を兼ねている点

@社はパネルメーカーとして部品の調達から施工・メンテナンスまでを一貫して実施可能。それによって仮に部品が故障して交換が必要な際にも迅速な部品調達が可能になり、発電機会損失を最小限に抑えることが出来る。

表2：　インバーター

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 候補1 | 候補2 | 候補3 |
| メーカー | P社 | Q社 | R社 |
| 製品名 | 000X | 001X | 002X |
| 容量（kW／台） | 125 | 120 | 120 |
| 効率（定格） | 98.5% | 98.5% | 98.5% |
| 機器価格 | X,X00, VND/ kW | X,X00, VND/ kW | X,X00, VND/ kW |
| 採用判断 | 〇 | △ | ✕ |

【候補1を選定した定性的理由】

1. 実績による評価が高い点

P社の製品は世界中で導入実績数が多く、弊社の他事業での採用実績も多数あり、高く評価している。

1. メンテナンスが迅速に対応出来る点

P社はベトナムに支社を持ちメンテナンス対応が可能な技術チームを独自で保持していることから、故障時にも迅速に対応が可能である。

＜作成例3＞　資料番号3-10- XX　　蓄電池の導入要件確認結果（作成例）

表1：日射量データ　（kWh/㎡）　月平均値　　【資料3-12-XX：meteo data】

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時刻 | 1月 | 2月 | 3月 | ・・・ | 12月 |
| Min | 6:00 | 0.34  | 0.36  | 0.37 |  | 0.34  |
|  | 7:00 | 1.65  | 1.71  | 1.79 |  | 1.63  |
|  | 8:00 | 3.23  | 3.34  | 3.51 |  | 3.20  |
|  | 9:00 | 4.75  | 4.90  | 5.15  |  | 4.69  |
|  | 10:00 | 5.78  | 5.97  | 6.26  |  | 5.71  |
|  | 11:00 | 6.33  | 6.54  | 6.86  |  | 6.26  |
| Max | 12:00 | 6.54  | 6.75  | 7.08  |  | 6.46  |
|  | 13:00 | 5.92  | 6.11  | 6.41  |  | 5.85  |
|  | 14:00 | 5.09  | 5.26  | 5.52  |  | 5.03  |
|  | 15:00 | 3.65  | 3.77  | 3.95 |  | 3.60  |
|  | 16:00 | 2.06  | 2.13  | 2.24  |  | 2.04  |
|  | 17:00 | 0.55  | 0.57  | 0.60  |  | 0.54  |
|  | 合計 | 45.9  | 47.4  | 49.7  |  | 45.4  |

表2： 最大・最低供給電力　：供給電力= ①×②×③

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 1月 | 2月 | 3月 | ・・・ | 12月 |
| 最大供給電力(kW) | 52,960  | 54,680  | 57,390  |  | 43,320  |
| 最低供給電力(kW) | 2,790  | 2,880 | 3,020 |  | 2,280 |

1. システムの太陽電池容量　：10,000kW
2. 総合システム係数　：　0.81　（資料3-12-XX：PVsyst）
3. 日射強度推定値　（表1）

【確認結果】

表2より8月に供給電力の差の最大値（58,700kW）＞導入する蓄電池の容量であることから、蓄電池導入の要件3)②を満たす。

＜作成例4＞　資料番号3-11-XX　　各ケースにおける電気、蒸気、温水、冷水の生成方法に関する比較結果（作成例）

表：各ケースにおける電気、蒸気、温水、冷水の生成方法の比較表

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 現状ケース（参考） | リファレンスケース  | プロジェクトケース |
| 電気  | 系統電力を利用  | 系統電力を利用  | コージェネレーションで製造＜天然ガス＞ 不足分は系統電力を利用  |
| 蒸気  | 貫流ボイラで製造＜天然ガス＞ | 先行して普及している貫流ボイラ（B社製）で製造＜天然ガス＞ | コージェネレーションで製造＜天然ガス＞  |
| 温水  | 貫流ボイラで製造＜天然ガス＞ | 先行して普及している貫流ボイラ（B社製）で製造＜天然ガス＞ | コージェネレーションで製造＜天然ガス＞ 一部、バックアップとして既設の貫流ボイラで製造 ＜天然ガス＞ |
| 冷水  | ターボ冷凍機で製造＜系統電力＞  | ターボ冷凍機（既設）で製造＜系統電力＞ | 蒸気吸収冷凍機で製造（蒸気はコージェネで製造） 不足分は、ターボ冷凍機（既設）で製造＜系統電力＞  |



図：リファレンス及びプロジェクトケース

＜作成例5＞　資料番号3-11-XX　　プロジェクト設備及びリファレンス設備のまとめ（作成例）

≪形式にはとらわれず、COPなど成績係数や技術的指標等を可能な限り記載してください≫

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | プロジェクト設備 | リファレンス設備 | 参考：既存設備 |
| メーカー | ＠社 | B社 | A社 |
| 製品 | ガスコージェネレーションシステム、蒸気吸収冷凍機 | 貫流ボイラ　B | 貫流ボイラ　A |
| 最高使用圧力 | 1.0 MPa | 0.98 MPa | 1.0 MPa |
| 常用圧力 | 0.8 MPa（想定） | 0.8 MPa（想定） | 0.8 MPa（想定） |
| 給水温度 | 45℃（想定） | 45℃（想定） | 45℃（想定） |
| 定格効率 | 98％ | 97% | 95%（A社Web参照） |
| 実運用効率 | 97％ | 96% | 94% |